

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を作成し、職員の見えるところに貼り、日々確認している。難しい事例や悩むときは理念に沿った対応を心掛けるようにしている。	毎年、4月の職員会議にて理念の反映状況を振り返り、当該年度の方向性の検討・確認をしている。理念は明文化して職員休憩室、事務所、食堂に掲示し、また、広報誌に掲載し外部へ公表するなど職員の意識づけを行っている。理念を日々のサービスや個別計画に反映できるよう、日々の利用者の言葉情報を大切にしている。また、必要時には管理者から注意を行い、理念に沿ったサービスを実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域の祭りや保育園、小学校、行事等交流していたが、今年は新型コロナウイルスの影響を受け地域交流事業は減少したが、事業所で発行している広報誌は定期的に回覧して頂いている。表に出たときは挨拶を交わしたり地域の方々からお花や野菜を頂くなど、地域との繋がりを大切にしている。	2ヶ月に1回発行する事業所の広報誌を地区の回覧版に掲載依頼し、事業所の様子を公開している。毎年行われる地域の合同地震・防災訓練には職員と利用者が参加している。地域の園児が散歩時に事業所に挨拶に立ち寄り、また、外気浴や庭の散歩をしていると地域住民から声をかけてもらい、野菜の差し入れを受けるなど、地域の一員としての交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、当事業所で行っているサロンを開催していたが中止した。市民による芸能発表会も中止となったが文化祭には利用者様の日々の作品を出展し、多くの方に見て頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際や事業計画、事業報告の他、議題を決めて意見交換し運営に生かしている。今年は新型コロナウイルスを鑑みながら行い、近況報告や取り組みを書類でお送りした月もある。	家族代表、地域住民代表、市の担当者等の参加により定期開催している。会議では事業所の取り組みや近況報告を行い、参加メンバーからは事業所への要望、意見が出され、具体的な課題の話し合いが行われている。今年度は外出・地域交流が難しい状況への対策として会議での提案により地域の保育園からDVDを提供してもらい、楽しみの一コマを作ることができた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委委員に市の担当者がメンバーになっているので、事業所の課題等について意見を頂いている。	市の担当者とは会う時には問題事例などの相談対応してもらったりなど、協力関係を築けるよう努めており、また、運営推進委員会でも事業所の取り組みやサービスの様子を報告・相談するなど関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正のための指針」を作り委員会を中心に年4回、どのようなことが身体拘束にあたるか等、話し合いを行っている。また、研修を行い身体拘束について理解を深め身体拘束をしないケアに努めている。リビングの出入り口や玄関は夜間のみ施錠しており、利用者様は自由に出入りできるようにしている。	3ヶ月に1回「身体拘束適正のための指針」を基に安全事故対策委員会を開催し、現在、人感センサー使用者4名に関して、職員の事前情報を参考に適正継続を話し合い検討している。会議決定した内容は全職員に伝え情報共有を図っている。また外部研修に参加した職員は伝達講習を実施し、全職員が身体拘束の理解と防止に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様が不快な思いをされないためにも身体拘束適正化委員会の際に話題にし、虐待防止に努めている。特に言葉使い、声掛けの場所には気を付けるようにしている。安全事故対策委員が高齢者虐待防止の研修に参加した。	身体拘束適正委員会開催時には現場での不適切なことば使い等を話し合い検討している。決定した内容は議事録に記載し、申し送りにて全職員に周知を図っている。また管理者は必要時に随時注意をしている。職員が参加した虐待防止関連法についての研修会の伝達講習を年2回行っている	現在、安全事故対策委員会、身体拘束適正委員会での組織体制の下、定期的な話し合いと検討を行い、議決した内容は全職員に周知し、意識向上を図る取り組みがされている。今後は、目標とするケアを目指すため、事業所のサービスを振り返り、職員自らが現状課題を見つけ、解決に向けた対策を考え、実行し、評価するなどの機会を設けることで、職員一人ひとりが自らの行動に責任をもち、尊厳あるケアの実施ができると思われる。今後の学習体制の取り組みを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方が1名おられる。管理者が成年後見制度及び日常生活自立支援事業に関する報告会に参加した。利用者様に必要があれば、市の担当者と相談をして制度を活用していく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を取って頂き、書面でわかりやすく説明できるように心掛けている。また、疑問がないかどうかをお聞きしながら同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響で家族懇談会の開催は出来なかったが、来訪時や電話、ケアプランの説明等に気になることがないか、ご家族様の思いを聞くようにしている。	受診の付き添いや備品補充で来所された際に、また電話での受診後の様子・薬の報告時、個別援助計画作成に際してなどにより、家族の要望・意見を聞く機会としている。利用者には「なんでも良いから、話を聞かせてください」と個別に声掛けを行い、意見・要望を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月職員会議に加わり職員の意見を聞いている。また、行事の企画や委員会に参加したり、その結果を確認し、対応できることは実行し、チームケアで取り組んでいる。	毎月の職員会議を職員の意見・提案を聞く機会としている。また、行事企画や委員会に参加し、業務中で職員に個別に声掛けを行い、意見・提案を聞くよう努めている。出された意見は、必要時は話し合いを行い、申し送りにて周知し、サービスに反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	例年、年1回の昇給と年2回の賞与により給与アップに努めている。年間の休日も充実しており個々の希望休が取れるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修、各委員会の研修、行事の企画等、一人ひとりの目標に向かって知識を深めスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年、勉強会や交流会を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で開催が中止となり、リモートによる勉強会になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、ご本人の心配事をご家族様にも聞いている。初期は特に目配りや気配り、声掛けを行い不安等を少しでも解消できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や電話でご家族様の不安や要望をお聞きしている。また、話やすい雰囲気作りに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して生活して頂くために必要な支援を見極め、事業所だけでなく関連機関と連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として歩んで来られた利用者様から、知恵と経験を学ぶ姿勢を持ち、様々な思いに対し寄り添うことができるような対応を心掛けている。また、理念の「自立した支援」を職員が共有し、利用者様の力が発揮できるように努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様にたよりを発行しているが、来訪時には積極艇に声を掛けて現状を報告したり、面会中止とした際は手紙を書いていたいたり、利用者様の心配事が少しでもなくなるように電話で現状をお話し話をして頂いた。ご家族様もチームケアの一員として協力してくださっている。	毎月のお便りにて、また、来所の折や電話連絡の際に事業所での生活の様子を伝えて共に支える関係性を大切にしている。さらに、2週間に1回の帰宅支援、不穏軽減のための居場所づくり、電話対応の協力依頼など、一人ひとりが安心して生活が送れるよう、それぞれの家族に協力を依頼するなど共に支える関係性の構築に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナ禍のため、地域の顔馴染みの人やボランティア、友人、知人の面会を自粛させて頂いた。ご家族様とは電話で連絡を取ったり、面会や受診時の付き添い等、関係性が途切れないようにした。	新型コロナウイルス感染防止のため馴染みの人との交流が困難な状況であるが、家族との電話連絡、受診時の付き添い、お墓参り、馴染みの床屋に行くなど家族の協力を得ながら、関係性の継続に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の性格を把握して、楽しくかつ、お互いがリラックスできる席となるよう何度も検討し、ご本人様にもお聞きしながら決定している。また、孤立しないよう職員が間に入り関係性を築けるよう支援を行っている。利用者様同士がお互いの思いに共感し、支え合ったり、言葉がなくてもそっとお茶を入れてあげる等、その姿に職員は温かい気持ちになることも多い。外出時やレクリエーション等の移動の場でも、孤立せず楽しく行えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られる際、情報伝達を行っている。法人内の特養に移動になった際は、ご本人様と面会したりご家族様が事業所に立ち寄って下さり経緯をお聞きすることもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や居室等、日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。また、表情や行動からも感じ取り、支援記録や連絡ノート、申し送りを行い共有している。サービス内容に検討が必要な場合は、ご本人の思いを受け止めながら検討している。	生活を送る中での利用者のつぶやきや、様子から意向や要望を捉えるように努めており、それらの情報は申し送りノートに記載し、朝・夕、口頭にて職員に伝達している。必要時は職員内で検討を行い家族との話し合いや協力を得ながら意向に沿えるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴、入居前までの暮らしぶりをお聞きしている。入居後も日常の会話の中で把握したり、ご家族様との会話の中で知り得たことをアセスメント様式に記入したり申し送りをしている。	入所時の情報提供書、ケアマネジャーの基本情報、家族面談等により、入居前の暮らしの情報を把握している。また、入所後も関わる中で発見したこと、家族情報などをセンター方式情報シートを活用して、本人の全体像の把握に努めている。できること、得意なことを理解して生活に取り入れている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の体調や気分等は起床時から始まっている。その為、食事摂取やバイタル測定、表情、ご本人様の言葉等、全てを見るようにしている。申し送りを行い情報を共有し、その日その日の対応を行っている。心身の状態に応じては無理せず自主性に任せたり、声掛けをして持っている力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様と話し合いを行い、また利用者様には会議に参加して頂いている。居室担当者が現状や意見を伝え、他の職員にも意見を求め、計画作成担当者が作成している。モニタリングは3ヶ月に1度行っており、今後の方針について申し送りを行ったり職員会議で担当職員から話がある等、共有して取り組んでいる。	サービス担当者会議は本人・家族の参加の下で開催しており、本人・家族の意向を反映した現状に即した計画を作成している。居室担当者は、実施状況の記録、他職員の情報を得ながら定期的にモニタリングを行い、次の計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子を個別支援記録に記入し、朝夕の申し送りで情報の共有を行っている。利用者様の状況、思いに変化が見られた場合は介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の複雑な思いを受け止め、また、利用者様の気持ちが数日間で変化することもあり、ご家族様とも話し合いながら、その都度検討し支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板等により地域の情報が伝わっている。コロナ禍で地域の行事も殆ど中止となったが、「できることを」との思いで賽の神やクリーン作戦等に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の元々のかかりつけ医を重視している。ご家族様やご本人様の意向で協力病院に変更する場合もある。元々のかかりつけ医療機関には、ご家族様に受診して頂き、状態等の報告を伝えて頂いたり、事業所から電話することもある。協力病院には職員が付き添い日々の状態を伝え、適切な医療を受けられるようにしている。	入居後も、元々のかかりつけ医を大切にしてい、長年診察してきた医師に受診することができる。受診には家族の協力も得られている。また、家族やご本人の希望により、協力病院への変更も可能となっている。その際は職員が付き添いも行い、状態の説明など行い、スムーズに受診できている。受診後の報告も家族へ電話等で行い健康状態の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置がない為、ご家族様に報告して受診の際に伝えてもらったり、かかりつけ医療機関に電話で相談や報告をしている。協力病院への受診は職員が同行し日々の状況を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活の状況や病歴等を医療機関に提出している。病院から説明がある際はご家族様に同意を得て同席させて頂き、今後の生活の留意点やリスクについて検討している。今年度は病院により面会ができないところもあったが、リモート面会が可能な場合はご家族様に許可を得て面会、入院によるダメージをなるべく抑えられるようにした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では看取りを行っていないため、入居時に説明させて頂いている。また、状態に変化が見られた時や要介護度が高くなった時には、再度事業所の方針を伝え、早い段階で他施設への申し込みの話をさせて頂いている。	終末期の見取りは行っていないが、状態が変化し重度化してきた時のことについて、入居時の契約書で説明し同意を得ている。また入院などで以前の生活が難しくなった時などは家族への説明を行い、状態に適した施設への移行を提案したり、その後の支援も行っている。同法人の施設の協力も得られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員がいつもいる場所にマニュアルのファイル、緊急連絡網を置いている。急変や事故発生時は管理者に報告し、かかりつけ医の指示を頂きながら対応している。また、緊急時はマニュアルに基づき救急依頼を行ったケースもある。	職員全員が定期的に外部の救命救急講習を受けている。AEDの扱いなども定期的に受けている。この度は感染症への対応などの訓練や対策も行い、マニュアルに沿って、きちんと対策を行っていた。訓練を重ねて緊急時の対応も可能となっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の訓練を重点的に行っているが、地震に火災を盛り込んだ訓練も行っている。職員は消火班と誘導班に分け誰もが訓練し動けるようにしている。また、安全点検を毎月行っており、防災意識を高めている。地域との避難訓練はコロナウイルスの影響で行わなかった。	災害時の対応について、地域住民との協力体制が整っており、地域の災害訓練等にも積極的に参加している。施設内においては、火災訓練は定期的に行われている。2階からの避難手順など、家族会や地域の方たちと細かく協議している。日々の安全点検も行っている。日ごろから地域との関係は良好なため、声掛けすると協力はすぐ得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ苗字が複数おられる場合はお名前を呼ばせて頂いているが、基本的には苗字に「さん」付けで呼ぶようにしている。また、入居する前の施設での呼ばれ方が慣れていると仰る方にはそのままお呼びさせて頂いている。トイレ誘導時は傍に寄り、さりげない声掛けと羞恥心に配慮している。各居室への入室時はノックをし、許可を得てからの入室に心掛けています。	日ごろの生活支援の中で、言葉使いや、ケアについて話し合いや会議を設けている。言葉使いについては、その人にあった呼び方など配慮している。個々の支援について、管理者が気づいた時には不適切なケアにならないように、職員への声掛けをこまめに行い、対応することで、個々の支援が適切に行われるようにしている。居室での過ごし方にも配慮がなされ、個々の時間も大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の衣服を選んでもらったり、お誕生日には食べたいものをリクエストして頂いている。また、やりたいことや見たいテレビ等、伝えやすい雰囲気にも努め、ご本人の思いや希望を表明できるようにしている。利用者様が参加された行事や避難訓練後にも感想を伺い、利用者懇談会でもお一人おひとりの意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様おひとりお一人のペースや過ごし方を大切にすることを心掛けている。また、その人らしさを発揮できるように様々な「できること」を見つけ出し、生きがいとなるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや着やすい服装があり、普段はご本人様に選んで頂いている。同じ衣服を着られる方には、他の服装も似合うことをお伝えしている。外出時、迷われた方にはおしゃれができるように職員が2点程選択させて頂くこともあり、利用者様に決定してもらっている。クリームや口紅をつけたり、いつも身だしなみを整えていた方は入居しても継続しておしゃれができるようにしている。男性入居者様は髭剃りの声掛けや準備をして身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中で一番の楽しみとしており、季節食や行事食、希望を献立に考案している。お誕生会には赤飯とお誕生日の方の食べたいものを作りみんなでお祝いしている。日々の食事作りは、台所に立つて行うことが困難な方には、座ったまま野菜の皮むきや盛り付け等、能力に応じて行って頂いている。片付けは分担して行い、多くの利用者様が関わられるよう支援をしている。	食事は、準備の段階から利用者が主体となり、材料の皮むきや、下ごしらえなどは器用に行なわれ、料理が好きな利用者から協力してもらい、楽しく食事作りを行っている。利用者個々の得意なことを活かして、個々のできることを引き出しながら、得意なことが継続できるように支援している。高血圧などの食事制限にも配慮し、みそ汁など塩分制限もみんな協力して、1日朝のみにするなど、みんなが食事について考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事の好みや苦手なもの、アレルギーを把握し栄養のバランスを考えて提供している。水分摂取がなかなか進まない方には夜間も含めこまめに提供したり、嗜好飲料に配慮しながらなるべく1日の水分量が確保できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行ったり洗面所に付き添わせて頂く等、利用者様に応じた口腔ケアを行っている。月に1度口腔衛生管理指導を受けており、口腔内を見て頂きその結果を支援に繋げている。治療が必要な場合は歯科医院への付き添いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は基本的にトイレで排泄できるように支援している。定時誘導を行っている利用者様の中に日中、紙パンツから布パンツに移行した方もいる。	トイレでの排泄を基本として、排泄のパターンを把握し日中はトイレへの誘導に努めている。夜間は、ハード面からトイレの場所が離れていることもあり、居室のほとんどにポータブルトイレを設置し対応している。排泄の自立に向けて職員の意識は高く、リハビリパンツから布パンツに移行した方もおられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と水分摂取に心掛け、牛乳やバナナ、食物繊維を考慮した食事提供を行っている。トイレでは必要時、腹部マッサージをして排便を促している。便秘症の方は主治医と相談の上、便秘薬の服用もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は利用者様個々の好みの温度や入りたい順番を把握し、その方に合った気持ち良い入浴に努めている。昔の話をしたり、歌を唄うなど、リラックスとコミュニケーション、スキニップの場として楽しんで頂いている。	入浴は基本的には午後から入るようになっていくが、個々の希望にも沿っている。その方が入りたい時間や曜日にも対応している。入浴介助中に口腔ケアを細かく行うなど、普段できなところなど口腔内の観察やケアを行っている。また浴室でのコミュニケーションを大切にすることで、楽しく入浴を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は年齢や体力を考慮し居家で休養している方もいる。浮腫予防に昼寝を勧めている方もいる。夜間はテレビやCDを楽しみながら就寝される方、湯たんぽで足を温めて寝たい方、休まれる時の習慣を施設内でも継続している方等、それぞれの希望に沿って対応している。不眠症の方には安心して眠れるように声掛けを行っている。睡眠導入剤を服用していたが、飲まずに眠れるようになった方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れがないよう、チェック表を活用している。申し送り簿やアセスメント様式に薬の目的、用法、用量、副作用を記入している。新しく飲む薬や変更時は特に症状の変化に留意し申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、縫物、踊り、塗り絵、貼り絵、調理、畑作業等お一人おひとりの得意なことに力が発揮できるように支援している。新聞やニュース、週刊誌、市報等から話題を提供して利用者様から話を引き出したり、余暇にはレクリエーションを行い毎日笑顔が見れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスで花見、紅葉狩りに出掛けた。外食ツアーは感染症に細心の留意をしてできる形で行った。また、事業所の敷地内にテーブルと椅子をセットし、季節を感じて頂きながら外での食事会を行った。お誕生月には、職員と一緒に買い物をして楽しんだ。ご家族様との外出は定期受診が殆どであったが、帰りに自宅のお仏壇に手を合わせたり、飼っている小鳥を見たりする利用者様もいた。通常の外出支援では利用者様から希望があった場合、家族様の許可を得て自宅に外出支援や畑で苺の収穫や花を摘んでくることになった。	コロナ禍で今年中は中々外出ができなかったが、事業所の玄関前で日向ぼっこをして地域の方たちとの交流を持ったり、買い物に出かけるなどしている。一人暮らしで自宅を留守にしている心配な方には自宅への帰宅の機会を多く持つように支援している。「今」できる楽しみを全職員でアイデアを出しながら行っており、感染予防をしながら、春、秋はバス旅行も行なった。個別には誕生日の外出などの工夫もされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との話し合いで、ご本人様の安心感の為に少ない金額をご自分で持っている方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、大切な方と話ができるよう電話での支援を行った。新型コロナウイルス感染症予防のために面会を中止した際は、ご家族様にメッセージを書いて頂いた。年賀状を出されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示委員を中心に、利用者様と一緒に季節の飾りつけを製作し季節がわかるようにしている。廊下のソファは利用者様同士が居心地よく座っており、座った時に目に入るところにも行事の写真や季節の飾りをしている。施設内には利用者様の作品も飾っている。西陽が当たる窓には遮光カーテンやすだれ、ブラインドを取り付けている。食堂内は安全に歩行できるよう、歩行器を廊下に出し目配りをしている。共有の場の消毒も徹底し、利用者様が安心して過ごして頂けるようにしている。	季節ごとの飾りつけを利用者と一緒に行っている。廊下やお部屋には日常生活での写真を入れた展示があちらこちらにあり、利用者や職員の楽しい様子が思い出として忘れないように工夫されていた。利用者の作品も展示されており、日ごろの作品づくりの励みにも繋がっている。廊下の片隅にはソファが置かれ利用者同士のコミュニケーションの場となっている。食堂のスペースが手狭なため、転倒などの危険がないように、歩行器などは廊下に置くなど、安全の配慮もなされている。共有部分の消毒等を実施しながら事業所内を有効的に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファでくつろいだり、日当たりの良い場所に椅子を持って行き、新聞を読まれたりしている。リビングや食堂の畳コーナーは誰でも自由に座ることができる。食事席は気の合う利用者様同士となるようご本人様の意見も聞きながら慎重に思案し安心して過ごせるような居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべく馴染みのものを持って来て頂いている。居室はご本人様が居心地良く、かつ安全に過ごして頂けることを第一に考えながら物の配置等を利用者様に提案させていただき一緒に検討している。	居室内はそれぞれ、造りの違いを活かして、ベッドの配置や家具の配置を工夫している。使い慣れた馴染みのものを持ち込み、自宅で過ごした時の雰囲気を出せるように工夫されている。ベッドは備え付けの物を利用しながら、使い勝手はそれぞれに合わせている。プライベートな空間を個々の利用者に合わせて心地よく過ごせるように工夫している。	ハード面でトイレが遠いなどの理由はあるが、ほとんどのお部屋にポータブルトイレが24時間設置されている。今後はお部屋の空間として、日中はカバーをするなど、居室の環境にも配慮されることが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室には手すりがあり、歩行不安定な方にも安心して歩行して頂けるようにしている。廊下から浴室に行く通路とトイレの1ヶ所にスロープがあるが、表示をして声掛けを行っている。トイレには使用中のカードを置き、利用者様に使って頂いている。居室からトイレ迄の案内は、利用者様に応じて居室にもわかりやすいように案内表記している。		